

# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成30年7月号 目次

## 【トピックス】

医動物・種類同定検査結果(平成30年4月～6月) .....	1
--------------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 6月 .....	2
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	6
---------------------	---




## 医動物・種類同定検査結果(平成30年4月～6月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成30年4月から6月の種類同定検査件数は、昆虫類4件(コウチュウ目1件、ハエ目2件、ハチ目1件)、でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
寝室の羽毛布団の上に多数の虫がみられた。		カツオブシムシ属の幼虫 (コウチュウ目)	一般に乾燥した動物質を食し、穀類などの植物質も加害する。毛織物や絹製品、魚類の干物や穀物などの害虫として知られる種が多い。
給食室ホールの出窓に多数の羽虫がみられる。		クロバネキノコバエ科 の一種 (ハエ目)	成虫の生息場所は主に屋外、森林内に多い。屋内でみられる成虫は活発な活動はせず、窓際や植物に静止していることが多い。幼虫は腐植物質から発生するが、発生源が不明なことが多い。屋外から飛来する場合と屋内の植木鉢の肥料などから発生する場合がある。
小学校の砂場にハチが多数みられる。		ヤマトスナハキバチ (ハチ目)	成虫は夏季に砂地に営巣し、幼虫の餌としてヨコバイ類やキジラミ類を狩る。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告 6月

## 《今月のトピックス》

- A型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 咽頭結膜熱の報告が多い状態が続いています。
- RSウイルス感染症の報告が、やや増加傾向にあります。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈6月期に報告された全数把握疾患〉

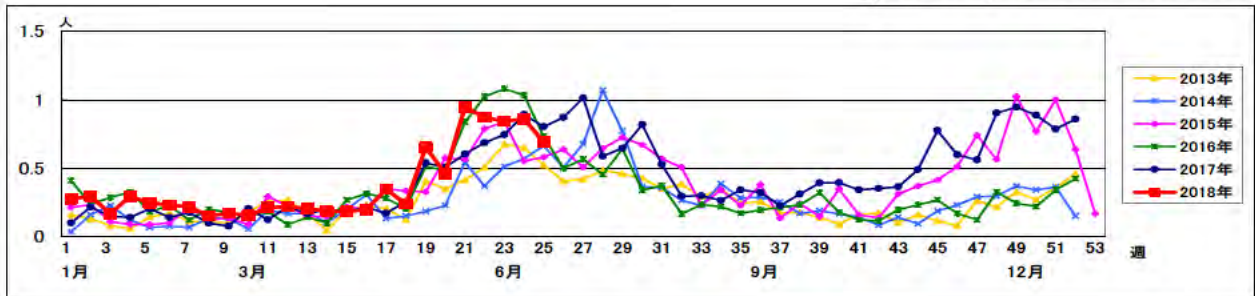
腸管出血性大腸菌感染症	19件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
レジオネラ症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	1件	水痘(入院例に限る)	2件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	12件	梅毒	17件
急性脳炎	1件	百日咳	17件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が18件、O26の報告が1件ありました。O157では同一集団内での報告がありました。
- 2 A型肝炎: いずれも国内での感染と推定され、経口感染が3件、感染経路不明が1件でした。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件あり、感染経路不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が5件あり、うち、ベトナムでの経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件でした。
- 5 ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く): 感染経路不明のCMVの報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 12件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎: 小児の報告が1件あり、病原体は不明です。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が1件あり、いずれも男性で、性的接触(同性間2件、異性間1件)による感染でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 幼児(ワクチン接種歴4回)および70歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ずつありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児で2件(いずれもワクチン接種歴4回)、30歳代および40歳代で5件(ワクチン接種歴なし4件、不明1件)、60歳以上で5件(ワクチン接種歴あり1件、なし1件、不明3件)の報告がありました。
- 12 水痘(入院例に限る): 検査診断例1件(40歳代)、臨床診断例1件(小児)の報告がありました。
- 13 梅毒: 17件の報告(無症状病原体保有者5件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)がありました。14件は国内での感染、3件は感染地域不明です。男性13件、女性4件でした。感染経路は、異性間の性的接触が15件、同性間の性的接触が1件、不明が1件です。
- 14 百日咳: 10歳未満では、新生児・乳児で3件(ワクチン接種歴なし)、小児で3件(ワクチン接種歴4回)の報告があり、10歳代で2件(ワクチン接種歴4回が1件、4回+追加接種1回が1件)、20歳代で3件(ワクチン接種歴不明)、30歳代で4件(ワクチン接種1回が1件、不明が3件)、40歳代で1件(ワクチン接種歴不明)、60歳代で1件(ワクチン接種歴なし)の報告がありました。

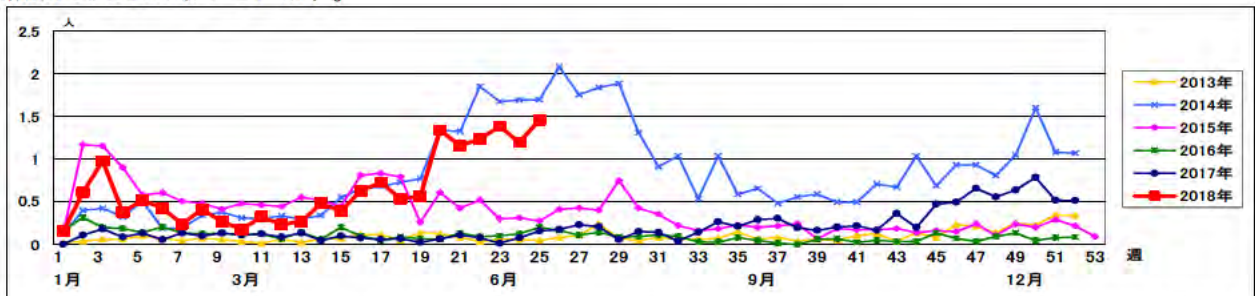
◇ 定点把握の対象

- 1 咽頭結膜熱: 第19週より増加傾向となっています。今後、夏季に向けて高値で推移するものと思われます。第25週では定点あたり0.69となっています。

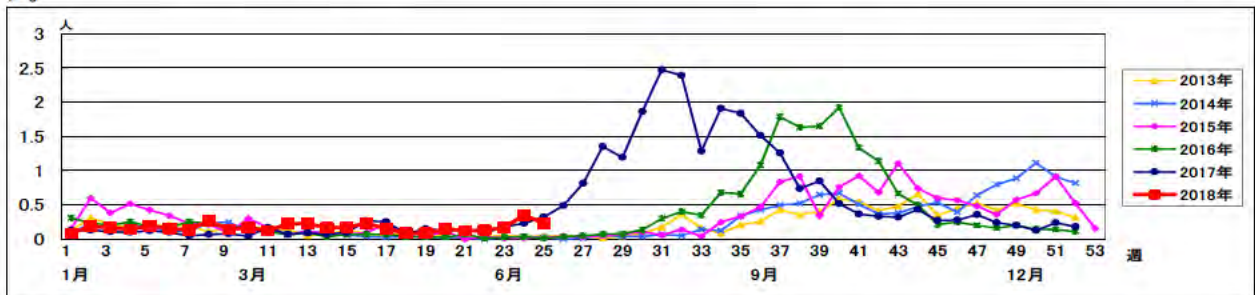
報告週対応表	
第21週	5月21日～5月27日
第22週	5月28日～6月 3日
第23週	6月 4日～6月10日
第24週	6月11日～6月17日
第25週	6月18日～6月24日



- 2 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第25週では定点あたり1.46となっています。



- 3 RSウイルス感染症: 第23週で定点あたり0.17、第24週で定点あたり0.35、第25週は0.23と、やや増加傾向にあります。2017年が例年と比べて流行が早かったため、今シーズンも動向を注視する必要があります。



4 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:31件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性: 4件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:8件	女性: 2件

5 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件、内科定点14件、眼科定点3件、基幹定点10件でした。

7月10日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子27件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(6月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	ア デ ノ 感 染 症 *2	麻 疹 疑 い	り ん ご 病	急 性 脳 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症
インフルエンザ AH1N1pdm09型			1					
インフルエンザ AH3型			3					
アデノ 1型					1			
アデノ 2型	1			1				
アデノ 型未同定				3				
パラインフルエンザ 3型				1				
ヘルペス 7型							1	
ヒトパルボ B19						1		
ヒトメタニューモ	2	3	1					
RS	1	1						3
ライノ	4	3		1				
ヒトボカ		1						
エコー 6型	1							
合計	1 8	1 8	4 1	1 5	1		1	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:咽頭結膜熱を含む

## 〈細菌検査〉

「菌株同定」の主な依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌が5件、肺炎球菌が1件となっており、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が1件ありました。保健所からは、結核菌47件、腸管出血性大腸菌12件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌12件、肺炎球菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌が各1件となっています。

「分離同定」の検査は、基幹定点からボレリアが5件、マラリアが1件、非定点からレプトスピラ抗体価が2件で、いずれも不検出でした。保健所からは、レジオネラ属菌の依頼があり、1群が検出しました。

「小児科サーベイランス」ではA群溶血性レンサ球菌が4件検出しました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(6月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5 <i>Enterobacter aerogenes</i> 、 <i>Enterobacter cloacae</i> 、 <i>Escherichia coli</i>		
		肺炎球菌	1 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能		
	非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1 <i>Klebsiella pneumoniae</i>		
保健所		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	12 <i>Enterobacter aerogenes</i> 、 <i>Enterobacter cloacae</i> 、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> 、 <i>Serratia marcescens</i>		
		腸管出血性大腸菌	12 O26:H11 VT1、O157:H7 VT1VT2、 O157:H7 VT2		
		インフルエンザ菌	1 <i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能		
		肺炎球菌	2 <i>Streptococcus pneumoniae</i>		
		劇症型溶血性レンサ球菌	1 A群TB3264型		
		結核菌	47		
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	ボレリア	全血、血清、髄液	5	不検出
		マラリア	全血	1	不検出
		A群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌	膿	2	A群溶血性レンサ球菌遺伝子陽性、肺炎球菌遺伝子陰性
	非定点	レプトスピラ抗体価	血清	2	不検出(国立感染症研究所)
保健所	レジオネラ属菌	喀痰	1	<i>Legionella pneumophila</i> 1群(培養法)	
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等		
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T4型、T12型、TB3264型		

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年6月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

平成30年6月の総アクセス数は、154,678件でした。前月に比べ約10%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*172.2%、保健情報10.2%、検査情報月報2.6%、食品衛生2.5%、生活環境衛生1.9%、薬事0.9%でした。

\*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

6月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」、3位は電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」でした。8位の「百日咳について」は、市内では、一年を通じて発生が見られますが、春の発生が比較的多いようです。

表1 平成30年6月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	8,361
2	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	6,579
3	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」	6,478
4	EBウイルスと伝染性単核症について	4,834
5	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,521
6	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	4,257
7	横浜市感染症情報センタートップページ	3,814
8	百日咳について	2,948
9	アデノウイルス感染症について	2,726
10	ぎょう虫(蟯虫)症について	2,655

データ提供: 市民局広報課

#### 「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

#### 「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

#### 電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/kaisen.pdf>



### (3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年6月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成30年6月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
マイコプラズマ肺炎について	1	感染症・疫学情報課
エンテロウイルスについて	1	感染症・疫学情報課

## 2 追加・更新記事

平成30年6月に追加・更新した主な記事は、5件でした(表3)。

表3 平成30年6月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
6月 1日	がん検診受診率(平成28年度)	掲載
6月 6日	平成30年熱中症情報	掲載
6月18日	2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新
6月26日	平成30年熱中症情報	更新
6月27日	2018年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】